

特集 | 海と日本

我が国は約7,000の島々から成り立っており、海に囲まれた海洋国家です。古来より船で行き来し、物資を運び、漁業や塩田など、海の恵みを受けてきました。

国土交通省の海岸統計によると、日本の海岸線の長さは約35,300kmといわれており、地球一周の8割以上の長さになります。また、日本の領土面積は約38万平方kmと世界第60位ですが、領海と排他的経済水域を含めた海域面積は約447万平方kmと日本の領土面積の約12倍、世界第6位になるといわれています。このような特徴ある地勢を持った日本は、世界の他の国々とは異なり、海によって守られている一方で、海を介して様々な国との交易を行うことができます。

さらに海は食料や医薬品、バイオ燃料などの製品を含め、貴重な天然資源を提供しています。海を健全に維持することで、生物による浄化、二酸化炭素吸収による気候変動の緩和に寄与します。このような海の多様性を守ることは、日本の豊かさを守ることに繋がります。

本号では、海と日本の関係性の中で、海と建築について、海洋建築の歴史と事例、人と海をつなげる水族館の魅力と技術を紹介します。次に、ウォーターフロントまちづくりや島々をつなぐ橋梁事業、波力発電によるエネルギー資源の開発など、長い海岸線を活かした日本の沿岸開発を俯瞰します。最後に、海洋リテラシーによる水産教育、未来に残していきたい水産資源と日本の海女習俗を通じて、海への関心を高めめます。

「海」からもたらされる恩恵を、建築、都市・まちづくり、公共事業、エネルギー、産業、教育、食文化、習俗等の観点から捉え、様々な分野でご活躍されている方々からお話を伺うことにより、「海」を切り口にあらためて日本という国を一緒に考えていきたいと思えます。